

# 2019年 幾代会 10月観察会 実施報告

実施日時 令和元年(2019年) 10月6日(日)

天気 気温 25度前後 曇り時々雨 歩行に適度の温度

## 観察会 ルート

世田谷区 二子玉川 兵庫島(野川と多摩川の合流地点) → 二子玉川左岸 → 展望所 →  
上野毛自然公園(世田谷百景) → 丸子川沿 → 善養寺(カヤの都天然記念物) →  
等々力溪谷入り口 → 日本庭園 → 等々力溪谷(国分寺崖線東端) → 不動の滝 →  
野毛大塚古墳(東京都指定史跡) → 浄真寺(九品仏・奥沢城跡 カヤとイチョウの都天然記念物) 阿弥  
陀如来

観察会参加者名 越前 石川 太田 木村 羽深 須崎 岡 中部 小沢 9名

観察会 下見 宇津木 中部 晴れ 9月30日

観察会実施まで 傘をさしての観察会となった。気温が適度で先に延ばしてもいいが先行き見通しが立てず実施することにした。実際は実施の判断に二転三転の始末であった。夜中の12時過ぎ雨が降り、このまま雨が続けばだめと思い、中止の案内をメールで出す。しかしその後は雨がやみ5時時点でも降っていない。予報は世田谷を見るも雨模様である。小雨状態との観測で再度実施案内を送信こちらからは遠い場所であること、今回を逃すと実施困難なことが予想されること。気温が適当なこと 参加者の期待があることなどで強行することにした。

幸いなことに12時以降のメールを見てくれた人は太田さんだけだった。ということは前日5時前に中止の案内を出していないことから、夜中に出しても実施するものと考えてきてくれるだろうことが予想された。出がけは雨がなかったことも幸いでした。

観察会の特徴 名所旧跡を含めた観察会である。カヤの大木(善養寺 九品仏) イチョウの大木(九品仏) 丸子川沿いの壁面はコンクリートの壁面であり、あまり見栄えが良くない。それで川沿いの家庭からは洋種のつる植物がにぎわしている。

○ コバノランタナ  
クマツヅラ科 (シチヘンゲ属)

ランタナより小型で這う



○デュランタ  
クマツヅラ科 (デュランタ属)

垂れ下がる花茎に径 1cm ほどの紫色の花を房状につけるが、暖地では通年咲く。咲き終わると、[オレンジ色](#)の果実を多くつける。日本では、特に濃紫色の花びらに白い縁取りが入るタカラヅカが人気品種として多く栽培されている。暖地では[生垣](#)などに多く使われる。



丸子川沿いは 崖線の南端にありもともとの樹木も見られる。

- 檫
- ハゼノキ などである。

兵庫島では エノキが目立った。多摩川の氾濫に伴う樹種が多いのだろう。

多摩川沿いは メドハギなどが目立った。

善養寺のカヤノキ めったに見られないこともあり、感服。越前さんに解説してもらう。

- カヤノキ
- 浄真寺 (総門)



浄真寺のカヤの木とイチョウの木 カヤは多くの実をつけていた。同様にイチョウの木も多数の実が。

○浄真寺のカヤ

○浄真寺のイチョウ



その他

町の変化は自然林や氾濫原 堤防沿いの光景を一変させる。二子玉川駅は多摩川にせり出して作られ土手沿いは整備されたシバに覆われている。氾濫原になる水辺の植物も外来種によっておおわれている。これが河原かと思える場所が保育園園児の遊び場である。安全地帯であるという点ではとても良いが、育てる環境としては心を育むという点ではいただけない。

その中に西多摩で見かけない目立った植物が有ったので小沢さんに協力してもらい調べてみました。下記の写真はアレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサの何れかだと思います。

ヤナギハナガサとダキバアレチハナガサは 葉が茎を抱いています。そこで見かけたのはアレチハナガサだと思います。

○アレチハナガサ

クマツヅラ科（クマツヅラ族）外来植物で分布が拡大している。青梅ではあまり見かけない。淡紫色の花を咲かせる花期は一般には8～9月、環境条件によって4月～12月までバラツキが有る。



中部・越前記